

# 企業連関による新たな保育形態の可能性からみた 企業主導型保育事業の特性と課題に関する研究

## STUDY FOR CHARACTERISTICS AND SUBJECTS ABOUT COMPANY-LED CHILDCARE FACILITY VIEWING FROM POSSIBILITIES ON NEW CHILDCARE ASSOCIATION CONDUCTED BY CO-CORPORATION

建築計画分野 高砂 篤  
Architectural Planning Atsushi Takasago

近年待機児童が顕在化し、様々な保育形態が生まれ、国は児童の受け皿の充足を図っている。本研究では、その中でも認可外であるため「保育の質」が懸念されている「企業主導型保育事業」に着眼する。アンケート調査・ヒアリング調査を基に、実態を捉え、専門家でも利用者でもない第三者である企業が主体的に計画参加することによって、保育活動が多様化し、「保育の質」が高められること、新たな保育形態が生まれていることを明らかにした。

In recent years, children on nursery school waiting lists became actualized, various forms of childcare were born, and the country is trying to increase the number of children accepted. This research focuses on the company-led childcare facility that is concerned about the quality of childcare because it is unlicensed nursery. Based on the questionnaire survey and hearing survey, the actual situation is grasped and it is clear that a third-party company that is neither an expert nor a user participates in the planning so that childcare activities are diversified, the quality of 'raised' is enhanced, and a new form of childcare association differing from ordinary licensed childcare facility is generated.

### 1 はじめに

#### 1.1 背景・目的

近年、「保育園落ちた、日本死ね」などにより待機児童の問題が世間に認知されるようになり、一般化・深刻化している。このような現状を受け、近年国は次々に新しい保育の施策を打ち出し子どもの受け皿を整備しているが、これらの施策は、「待機児童解消」一辺倒で「保育の質」についての議論は不十分である。中でも、「企業主導型保育事業」は、平成28年度から最大5万人程度の保育の受け皿の確保を目的として実施されており、待機児童問題最後の切り札として期待されているが、内閣府が主導する認可外であるため「保育の質」が懸念されている。そこで本研究は、今までは保育の専門家が設置・運営してきた保育事業を、専門家でも利用者でもない第三者である企業が行う「企業主導型保育事業」に着眼し、実態を捉えること、企業が主体的に計画参加することによってどのように運営・保育が行われ「保育の質」が高められているか明らかにすることを目的とする。

#### 1.2 調査概要

本研究では、①アンケート調査②ヒアリング調査を行っている。①は全体の傾向・状況を把握する目的で助成決定一覧表<sup>1</sup>に記載されている中(2016件)で、特に施設数が多い6都道府県の都市<sup>2</sup>と施設数が少な

い11都道府県<sup>3</sup>の合計574施設に配布し、71通回収(返信率12.3%)した。②は、詳しい実態を調査する目的で、①の中でも、設置・運営を自社で行い、特に企業と保育施設の関係が強いとみられる施設を7施設選定して行っている。調査内容は表1のようになっている。

### 2 企業主導型保育施設の特性と課題

アンケート集計から、全体の傾向と企業種別・規模毎の特徴(表2)を把握する。

#### 2.1 企業種別・企業規模

企業種別(図1)は、「会社」が最も多い。続いて「社会福祉法人(以下[福祉])」、業種が保育の「保育事業者(以下[保育])」、「医療法人・学校法人(以下[医療])」が続く。次に会社規模(図2)をみると「大企業(以下[大])」は40%、「中小企業・小規模企業(以下[中小])」が60%となっている。

#### 2.2 設置主体・運営主体

企業主体の割合は、設置は75%、運営は57%となっている。運営は専門外でないため、保育事業者に任せる割合が増えると考えられ、特に[大]に表れている。

#### 2.3 設置目的

全体では「地域の待機児童解消」「女性従業員の退

表1 調査内容

アンケート・ヒアリング調査
<企業について>主体企業名称・業種・資本金・総従業員数、設置主体、運営主体、利用企業数・名称
<基本情報>開設年月、設置目的、定員、入園できる子供、保育料、開所日時、保育士数、食事
<空間について>土地・建物の所有、入手方法、改修、立地、延べ床面積、諸室の有無
<企業とのつながり>出向、関わる人、保育上の社員とのかわり、設備・物的支援、企業の業種を活かした保育活動、保護者・地域との関係
<保護者との関係>保護者との関係、保護者が施設を選んだ理由、地域との関係、地域との付き合い方

職防止」が他に比べて高い。しかし、種別・規模別でみると[大]は「女性従業員の退職防止」、[中小]は「地域の待機児童解消」が高く、企業の社員の数により、子どもの数が左右されること、[保育]は「地域の待機児童解消」が高く、認可保育施設の事業の延長であること、[医療]は、「女性従業員の退職防止」が高く、看護師などの退職の問題を抱えていること、などによりそれぞれ設置目的が異なり、運営や保育形態に影響を与えると考えられる。

## 2.4 待機児童への対応

1) 児童受け入れ枠 「企業枠、利用企業枠（設置・運営に携わらない企業の枠）、地域枠」「企業枠、地域枠」が約80%を占めており、利用企業や地域の待機児童対策にもつながる。種別・規模では、[大]は「企業枠」が他に比べて高く、「中小」は、地域枠を必ず含む運営をしている。「保育事業者」も必ず地域の子供も受け入れており、設置目的の影響がみられる。

2) 対象年齢と実際の児童受け入れ年齢 対象年齢は「0~2歳」「0~5歳」がほぼ同数となっている。しかし、実際の受け入れ児童年齢を見ると、約60%が「0~2歳」となっており、待機児童が多い年齢帯の受け入れをしており認可保育施設の補完をしている。また乳児向けの保育を行っていくことが重要であるといえる。

## 2.5 認可外の特性を活かした柔軟な運営

1) 開所日時 平日・土曜日の7時~20時（延長保育含む）に開所している認可保育施設と比べて、開所日は「月~金」「月~日」が33%、開所時間は「7時」以外が64%、閉所時間は「20時」以外が75%であり、企業の業務時間に合わせた柔軟な対応をしている。

2) 料金 認可保育施設は収入別に保育料が変動することに対して、単一料金での預かりである。世帯年収平均560万<sup>4</sup>の0歳児の保育料44500円の認可保育施設と比べると、「企業枠」では約34%が「2万~3万」以内で非常に安いことがわかる。「地域枠」をみても「3万~4万」以内の料金が95%を占めており、認可外であるが非常に安い料金設定をしている。また種別・規模では、[大]は、「4万~」が高いことに対して[中小]は「4万~」はなく「0~1万」以内が他に比べて高くなっており、給与を考えた柔軟な対応をしている。

## 2.6 企業と保育施設の近接とコンパクト化

1) 立地 立地選定理由は、「企業と近いから」「交通の便がいいから」が高い結果となり、保育環境より企業との立地を意識している。結果として、企業の「敷地内」にあるものは、41%も存在しており、「徒歩圏内」は25%を占めている。種別・規模でみると、[大]は「敷地内」が多く、[中小]は「敷地外」が多くなっており、敷地の大きさや賃貸部屋数が多さが影響を与える。また[社会]は「敷地内」が多くなっており、事業との

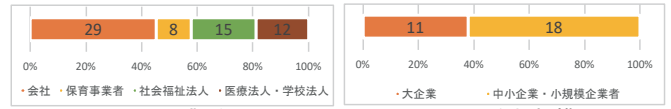


図1 企業種別

図2 会社規模

表2 各項目と全体・企業種別・規模のクロス集計

		全体	大企業	中小企業 小規模企業	保育事業者	社会福祉法人	医療法人 学校法人
設置主体	単独企業	75%	91%	83%	100%	53%	75%
	企業合同	1%	0%	6%	0%	0%	0%
	保育事業者	25%	9%	11%	0%	27%	25%
運営主体	単独企業	57%	45%	61%	100%	33%	50%
	企業合同	1%	0%	6%	0%	0%	0%
	保育事業者	43%	55%	28%	0%	40%	50%
設置目的 (複数回答)	地域の待機児童解消	68%	45%	78%	75%	60%	50%
	女性従業員の退職防止	64%	82%	61%	38%	60%	83%
	女性社員を増やす	33%	45%	39%	0%	40%	42%
	企業のイメージアップ	23%	27%	39%	13%	13%	17%
	社員の待機児童が多かった	19%	27%	17%	13%	13%	17%
子どもの枠	企業枠のみ	15%	36%	0%	0%	20%	17%
	企業枠と利用企業枠	3%	0%	0%	0%	0%	17%
	企業枠と利用企業枠と地域枠	72%	55%	94%	75%	67%	25%
	企業枠と地域枠	10%	9%	6%	13%	0%	33%
対象年齢	0~2歳	47%	45%	67%	50%	27%	33%
	0~3歳	10%	18%	0%	13%	13%	17%
	0~5歳	43%	36%	28%	38%	60%	50%
実際の児童 受け入れ	0~2歳	66%	64%	83%	63%	40%	50%
	0~3歳	12%	9%	6%	0%	20%	25%
	0~5歳	22%	9%	11%	25%	33%	25%
開所日	月~金 (土日祝不定期)	19%	36%	11%	50%	13%	0%
	月~土	6%	18%	0%	13%	0%	8%
	月~日	61%	27%	61%	38%	73%	75%
開所時間	6時30分~	3%	0%	0%	0%	13%	0%
	7時	35%	45%	28%	13%	33%	50%
	7時30分	33%	27%	44%	38%	20%	33%
	7時45分	6%	0%	6%	0%	7%	17%
	8時	19%	27%	11%	50%	20%	0%
	8時30分	3%	0%	6%	0%	7%	0%
閉所時間	~17時30分	3%	0%	0%	0%	7%	8%
	18時	5%	9%	6%	0%	0%	8%
	18時30分	6%	0%	6%	0%	7%	17%
	19時	30%	9%	39%	63%	20%	25%
	19時30分	16%	0%	17%	13%	27%	17%
	20時	25%	45%	17%	13%	33%	17%
0歳児料金	企業枠 地域枠						
	企業枠						
	~1万	15%	0%	9%	22%	13%	0%
	1~2万	19%	4%	27%	17%	0%	33%
	2~3万	10%	10%	9%	11%	0%	13%
	3~4万	52%	81%	27%	39%	75%	40%
4万~	5%	10%	18%	0%	0%	7%	
立地選定理由 (複数回答)	企業と近いから	44%	73%	33%	38%	53%	50%
	交通の便がいいから	30%	36%	22%	25%	20%	17%
	周辺環境が保育向きだったから	28%	45%	33%	38%	0%	33%
	保育に適した建物だったので	17%	9%	28%	25%	7%	0%
	従業員の通勤経路にある	18%	45%	0%	13%	33%	8%
安い・入手費用が掛からない	10%	27%	11%	13%	0%	8%	
立地	敷地内	41%	64%	17%	38%	53%	33%
	敷地外						
	0~1000m(徒歩圏内)	25%	0%	28%	13%	20%	58%
延べ床面積	~99㎡	38%	9%	44%	63%	27%	25%
	100~149㎡	21%	18%	6%	0%	33%	25%
	150~199㎡	20%	9%	33%	0%	27%	8%
	200~300㎡	7%	18%	0%	0%	0%	8%
定員	301㎡~	15%	27%	0%	25%	7%	25%
	10~19人	65%	45%	72%	63%	67%	42%
	20~29人	15%	18%	11%	13%	13%	17%
	30~49人	20%	27%	11%	0%	20%	33%
諸室の有無 (複数回答)	50人~	8%	9%	6%	25%	0%	8%
	調理室	92%	100%	100%	88%	87%	83%
	園庭	35%	45%	33%	25%	33%	58%
	プレイルーム	34%	45%	11%	13%	33%	42%
	病児保育スペース	18%	9%	28%	13%	13%	25%
	一時預かりスペース	13%	45%	11%	0%	7%	8%
地域交流センター	7%	18%	11%	0%	7%	0%	

親和性がこの結果を生んだと考えられる。

2) 延べ床面積と定員・諸室の有無 延べ床面積は、「~99 m<sup>2</sup>」が38%となっており、「100~149 m<sup>2</sup>」「150~199 m<sup>2</sup>」も合わせると79%を占める。認可保育施設の平均延べ床面積675 m<sup>2</sup>と比較すると、非常に小さい。また、合わせて定員の数も「10~19人」が65%となり、少人数で保育を行う施設が多い。種別・規模でみると[大]は「301 m<sup>2</sup>~」が27%であるが、[中小]は「~99 m<sup>2</sup>」が44%を占め、それに伴い定員の数も変動しており、社員数の影響は大きい。次に保育施設の諸室の有無を見ると、「調理室」は、92%の施設が持っているが、「園庭」「プレイルーム」は約35%となっており（認可保育施設は園庭、プレイルームともに約80%）、保育環境よりも企業との近接性から施設選定することが影響し、延べ床面積・諸室ともにコンパクト化している。

### 3. 企業と保育施設の連関

表3は調査事例の基本概要、表4は企業等と連関をまとめたものである。

#### 3.1 企業との関わり・話し合い

保育施設への社員の出向の割合（図3）は、26%と低い。対して、運営に関わる社員（図4）は64%となっており、出向して保育にまで関わる社員は少ないが、会社の業務をこなしつつ施設の運営に関わる社員が多い。また、話し合いの有無（図5）は、83%となっており、企業は全く無関心ではないといえる。

1) 設立前の話し合い 設立前に携わるうえで「社長単独」「アンケート」「従業員」「育児経験者」など様々な意見抽出の方法がある。内容は「木材を利用した空間」「企業内に施設がある利点」「認知度をあげる」など施設毎に保育事業者単体では抽出されない視点で話し合っており、独自の保育形態を生み出す。

2) 設立後の関わり・話し合い 「毎日スカイプで日々の連絡」「事務員を請け負い、保育施設の意見を伝える」「園長先生を社員が請け負い、事務的な作業や様子を見に行く」「新しく企業に保育部署を設立し、社員が一人出向する」など設立後の関係方法も様々である。保育士だけでなく、企業の社員が第三者として注意を向けることで、不慮の事故が起こりにくい環境であるといえる。また保育内容にも携わることで日々の保育が改善され、豊かな保育が生み出される。

### 3.2 企業と運営のつながり

社員の意見や企業の思惑を交えた積極的な議論が、ニーズに対応した多様な運営形態を生み出している。

1) 一時保育 「企業に保育園があることの利点」「需要への対応・施設の認知を高め月極保育を増やす」のような意見から一時保育を開始しており、妻が家を空けるときに連れてきたり、イベントの際のみ利用[D]、求職中の人や不定期に仕事がある地域の人利用[F]などの効果がある。また料金設定においても、企業枠のみで一日預けるため一日3500円[D]、地域枠も預けるため一時間500円[F]のような差異があり、保護者との直接契約の利点を生かし、企業だけでなく地域の様々なニーズにも柔軟に答える運営を行っている。

2) 料金 社員の「1分過ぎると延長料金が加算される苦い思い出」の共有から「延長料金なし」が生まれ、急な会議へ対応できる[D]や「社員のため・常に満員となる状況をつくる」ために企業枠の社員は保育料金「5000円」で利用できる[G]など、利用者のニーズに対応する柔軟な料金設定が生み出されている。

3) 保育士の待遇・働き方 保育士を自社採用している事例では、企業と連関することで、月給30万円と長い休憩時間[D]、認可に比べて1割高い給料[G]など待遇が向上している。このように認可保育施設にはない企業的な考え方が浸透し、保育士の待遇に伴い保育士の質も向上する可能性があるといえる。

#### 3.3 社員との保育上の関わり

1) 日常的な交流 日常的な交流（図6）は、アンケートより8%と低い。しかし、施設近辺に複数の取引先があるため、営業に訪れた、多数の社員が毎日入れ替わりで立ち寄る[A]、社員側から立ち寄り、癒されに來ることに加え、雨の日に施設側から、オフィスに訪問し、社員とパソコンなどに触れて遊ぶ[D]、企業全

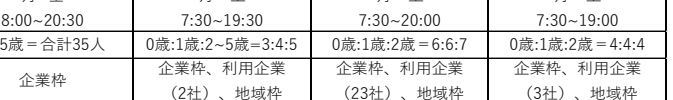
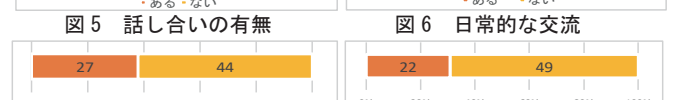
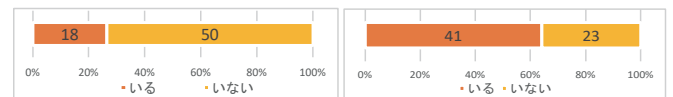


表3 調査事例概要

	A	B	C	D	E	F	G
所在地	大阪市	富山県	富山県	東京都港区	福岡市	福岡市	長崎県
設置・運営主体	単独企業	単独企業	共同企業(13社)	単独企業	単独企業	単独企業	単独企業
保育主体	自社採用	保育事業者	保育事業者	自社採用	保育事業者	保育事業者	自社採用
企業規模	中小企業 (不動産・木材仲介)	社会福祉法人	中小企業(銷物メーカー、 不動産、特養ホームetc)	大企業(IT)	社会福祉法人	中小企業(不動産)	中小企業 (税理士事務所)
開所日	月~金	月~土、祝	月~土	月~金	月~土	月~土	月~土
開所時間	8:00~19:00	7:30~19:00	6:00~19:30	8:00~20:30	7:30~19:30	7:30~20:00	7:30~19:00
定員	1歳:2歳=6:6	0~2歳:3~5歳=10:2	0~2歳=12	0~5歳=合計35人	0歳:1歳:2~5歳=3:4:5	0歳:1歳:2歳=6:6:7	0歳:1歳:2歳=4:4:4
児童受け入れ	企業枠、利用企業 (3社)、地域枠	企業枠、利用企業 (3社)、地域枠	企業枠(13社)、 利用企業(4社)、地域枠	企業枠	企業枠、利用企業 (2社)、地域枠	企業枠、利用企業 (23社)、地域枠	企業枠、利用企業 (3社)、地域枠
立地	敷地外(1001m~)	敷地内	企業団地内	敷地内	敷地内	敷地内	敷地外(1001~)
新築or改修	商業施設改修(1階)	事務室改修(2階)	オフィスビル改修(1階)	オフィスビル改修(20階)	新築	オフィスビル改修(2階)	住宅改修(1階)

表4 企業・保護者・地域との連関と図面

※ 遊ゴシック：具体的連関内容 MS ゴシック：効果

	設立前の話し合い・要望	運営	保育	空間	設立後の話し合い・要望	保育	空間	図面	
A事例	<p>社長との話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怪我がないように</li> <li>・木のおもちゃ購入</li> <li>・木材を利用した空間</li> </ul>	<p>物的支援</p>	<p>木の家型のおもちゃ</p> <p>木のモノレール</p>	<p>空間コンセプト決定</p> <p>woodybox</p>	<p>毎日スカイプで報告</p> <p>行事の活動の相談</p> <p>保護者・地域ともっと聞かれるように提案</p>	<p>日常的な関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・営業帰りに遊ぶ</li> <li>・リフレッシュ</li> </ul> <p>大人との交流</p>	<p>親子の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供と遊ぶ</li> <li>・子育て相談</li> </ul> <p>遊び相手の増加</p>	<p>黒板 事務機 テレビ 調理室</p> <p>0 1 3 5(m)</p>	
B事例			<p>特養ホームに給食をつくってもらう</p> <p>アレルギー対応・離乳食</p>		<p>担当事務員と社会福祉法人やりとり</p>	<p>行事の際の関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤労感謝の日に花束を渡す</li> <li>・業種を活かした保育活動</li> <li>・高齢者と敬老の日など年5回関わる</li> <li>・取引先の製品提供</li> <li>・取引先からひな人形プレゼント</li> </ul> <p>大人との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多世代交流</li> <li>・物的支援</li> </ul>	<p>多目的室利用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者用畑利用</li> <li>・雨の日の活動補完</li> <li>・食育</li> <li>・プレイルーム</li> <li>・共用畑</li> </ul>	<p>休養室 宿泊・研修室 保育室 乳児室 多目的ルーム 屋上</p> <p>0 1 3 5(m)</p>	
C事例	<p>アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体調不良児対応</li> <li>・園長の意見</li> <li>・見通しのいい空間</li> </ul>	<p>病児保育</p>	<p>共同設置企業からの寄付、50万円で遊具購入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特養ホームに給食をつくる</li> </ul> <p>アレルギー対応・離乳食</p> <p>通常の1/3の料金で使用</p> <p>事務室、キッチンを開く</p>	<p>共同設置の貸しオフィス</p>	<p>代表企業の部長が園長を兼ねる</p> <p>第三者の目</p>	<p>業種を活かした保育活動(特養ホーム・遊物メーカー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩で特養ホームの高齢者とわかる</li> <li>・遊物メーカーの子供向けイベント</li> </ul> <p>多世代交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験</li> <li>・多世代交流</li> </ul>	<p>隣の部屋を使用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業内団地緑地、茶室を利用</li> <li>・雨・雪の日の遊び場</li> <li>・プレイルーム</li> <li>・園庭</li> </ul>	<p>病児保育室 事務室 キッチン 食事スペース</p> <p>0 1 3 5(m)</p>	
D事例	<p>50人の有志で話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育施設の是非</li> <li>・企業内にある利点</li> <li>・保育士自社採用</li> </ul>	<p>保育士の待遇UP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・延長料金なし</li> <li>・一時保育</li> <li>・給料：30万〜</li> </ul>	<p>行事の際・緊急時の利用</p> <p>急な会議への対応</p>		<p>保育専任部署の創設(企業からの出向者1名)</p> <p>コンセプト</p> <p>「会社de子育て」</p>	<p>日常的な関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様子を見に来る</li> <li>・行事の際の関わり</li> <li>・一日社員先生</li> <li>・取引先の製品提供</li> <li>・色鉛筆の寄付</li> </ul> <p>大人との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な経験</li> <li>・物的支援</li> <li>・仕事の負担軽減</li> <li>・イメージアップ</li> </ul> <p>親子の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様子を見に来る→相談</li> <li>・授乳→早期復帰</li> <li>・親子ご飯</li> <li>・行事参加</li> </ul>	<p>子育ての意識変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リフレッシュ</li> <li>・オフィス内散歩</li> <li>・雨の日の散歩</li> </ul> <p>食育</p>	<p>オフィスエリア プレイルーム 社員休憩スペース 園庭 保育室② 保育室①</p> <p>0 1 3 5(m)</p>	
E事例			<p>アイボ</p> <p>物的支援</p>		<p>高齢者に役割を与え、生きがいが増える</p>	<p>業種を活かした保育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供と遊ぶ、見守る、行事、食べ物を育てる</li> </ul> <p>多世代交流</p>	<p>特養ホームの廊下共同テラス利用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨の日の活動補完</li> <li>・食育</li> <li>・プレイルーム</li> <li>・食育の場</li> </ul>	<p>保育室 共有厨房 テラス 共有スペース</p> <p>0 1 3 5(m)</p>	
F事例	<p>認知度を上げる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業内での話し合い(育児経験者を集めて)</li> </ul>	<p>共同利用企業23社</p> <p>料金1時間500円</p> <p>一時保育</p> <p>用事があるときに預ける</p>		<p>空間要素決定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色、素材、柄</li> <li>・キッチンの充実</li> </ul>	<p>利用企業と保育面で関わりたい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と関わりたい</li> </ul>	<p>行事の際の関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハロウィン、勤労感謝</li> </ul> <p>大人との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・営業トークの増加</li> <li>・イメージアップ</li> </ul> <p>行事の際オフィス訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様子を見に来る</li> <li>・一時保育児の安心感</li> <li>・授乳→早期復帰</li> </ul> <p>協賛イベントのサンタが来る</p>	<p>バルコニー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多目的室</li> <li>・授乳室</li> <li>・事務室</li> <li>・キッチン</li> <li>・保育室</li> </ul>	<p>0 1 3 5(m)</p>	
G事例	<p>企業の子供を預かる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行列を作る</li> <li>・保育士自社採用</li> </ul>	<p>破格の保育料</p> <p>給料</p> <p>地域の認可保育施設より1割高い</p> <p>保育料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業様、月5000円</li> <li>・利用企業様、月25000円(地域様、月35000円)</li> </ul>			<p>地域と密に関わりたい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ニーズにこたえたい</li> </ul>	<p>子育て支援イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ベビーフォト」</li> <li>・「マタニティヨガ」</li> <li>・「マザーズコーティング」etc</li> </ul> <p>→相談をしたり、知識を得る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人が開園式参加</li> <li>・地域のおじいさんや店に訪問</li> <li>・行事参加</li> </ul> <p>積極的な挨拶</p>	<p>日常的な交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援員の資格を持ち、保育を手伝う</li> <li>・リフレッシュ</li> <li>・社員と保育士の交流</li> <li>・月一度の食事も</li> <li>・社員旅行</li> <li>・一企業行事の賑わい</li> <li>・意見を言いやすい環境</li> <li>・子育て支援イベントに協力</li> <li>・評判を上げる</li> </ul> <p>無料で講師</p> <p>園庭として利用</p> <p>多世代交流</p>	<p>保育士が基準より一人多体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嘱託医の敷地</li> <li>・改修</li> </ul>	<p>保育室兼午睡室 キッチン 授乳室 病児保育室 保育室兼食事室</p> <p>0 1 3 5(m)</p>

体が積極的に保育に携わるために、社員が子育て支援員の資格をとり、一人ずつ保育補助として入るシフトを組み、一人大人が多い状態で保育活動を行う [G] などの交流が行われる事例がある。現在は少ないが、これらの事例のように仕事と兼ねあいをつくりながら少しでも保育に日常的に関わっていくことで、多様な人と関わる経験ができるだけでなく、児童一人当たりの大人の数を増やすことができ、安全性も向上する。

**2) 行事の際の交流** 行事の際の交流 (図 7) は 38% あり、日常的な交流に比べて高くなっており、子どもは多様な体験をできる。[D] は、一日社員先生という企画を定期的に行っている。趣味を生かして子供に披露したい社員が挙手性で様々なことを提案し行う企画で、社員が家から道具をもってきて「毎週一回英語の読み聞かせ」や「ライブイベント」など保育士だけでは困難であることを社員の力を借りて行っている。企業が会社のための業務だと寛容に捉えることで個人のイベントであるが可能になっている。[F] は、ハロウィンなどの行事の際に 5 階の普段行かないオフィスを周り、お菓子をもらうなどの交流を行う。

### 3.4 企業の業種を活かした保育活動

企業の業種を活かした保育活動 (図 8) は、31% の企業が行っている。

**1) 高齢者との関わり** [B] [E] は社会福祉法人、[C] は特養ホームが共同企業であり、保育施設と親和性が高いため、高齢者と多世代交流を行っている。

**2) 給食への支援** 特養ホームに依頼することで、アレルギー対応や離乳食対応をすることで新たに調理師を雇う必要がない「共同調理」[B] [C] や飲食店であればそのお米を利用するなど、業種を活かした食材の斡旋など「食材のこだわり」がある。さらに [C] では共同設置企業である特養ホームと協力することで、一食 310 円で給食を提供でき、「安く利用」できるなど給食への支援があることで、保育施設の運営が効率的・効果的に行うことができる。

**3) 物的支援** 24% の保育施設が企業から物的支援を受けている (図 9)。木造仲介をしていた歴史から、木へのこだわりが強く木のおもちゃ購入 [A] や共同設置企業に寄付を募り、50 万円集めおもちゃの購入 [C] などがある。また、取引先からの提供もあり [B] は、ひな人形の寄付を受けている。積極的な物的支援は、施設の予算を超えた保育素材が増やすことができる。

**4) 設備利用** 企業内設備は 29% の施設が活用しており (図 10)、主に事務作業に用いるものを活用している。中には「紙・ティッシュなどは自社製品を備品としている」など企業ならではの活用が見られ、設備活用によりコストダウンを図ることができる。

**5) その他** 「タクシー」会社では、バスで遠足、「工

場」では工場見学、などがアンケートで見られた。大企業で様々な業種を展開している企業は、野菜工場の見学など支店を活かした保育活動など会社全体でのサポートがあり、業種により独自の保育活動へ発展する。

### 3.5 地域イベントの実施

企業側の意見により利用者だけでなく地域に向けたイベントを実施しており、子育て支援施設の可能性を持つ。[A] では、「地域に知ってもらいたい」要望から月一回地域の親子も制作などをできる地域交流会、[G] では「子どもではなく保護者の心」に焦点を当てた、マタニティヨガ、ベビーフォトなどが行われている。

### 3.6 企業と空間のつながり

**1) 空間への影響** 木造仲介を行っていた [A] は、「木を主とする保育室」を要望することで「woodybox」が完成している。[C] は「見通しのある空間」を作るように要望しており、給食を共同企業が請け負うため、キッチン・事務室に壁がない空間が完成している。結果として、誕生日にはホットケーキを作るなどの家庭的なキッチンの使用や事務室の視認性の確保ができています。企業と連関することにより、空間コンセプトに影響を与えるだけでなく、余剰になった空間をより保育にとって、効果的なものに変化する可能性がある。

**2) 安価な賃貸料金での保育室利用** [C] は、共同設置企業の貸しビルの一室を借りており、通常 60 万円の賃料を 20 万円で利用している。

**3) 空間の補完** 企業内の空間活用 (図 11) は、41% であり、[C] は、隣の空き部屋を共同設置企業の好意で活用 (図 12) するなど空間を補完している。空間を補完することでプレイルーム・園庭の代用ができ、雨の日でも広い空間で遊ぶことが可能となる。しかし、特に室内においては保育専用空間ではないため、角を隠れていないなどの課題があり、保育士の注意深い目が、他空間を使う際には必要である。

### 3.7 企業への効果

「仕事の負担軽減」「イメージアップ」「子育ての意識変化」などの直接的な効果だけでなく、付随的な様々な効果がある。不動産の営業の話題が一つ増える「仕

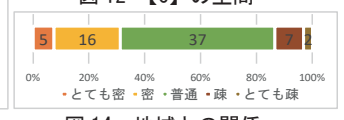
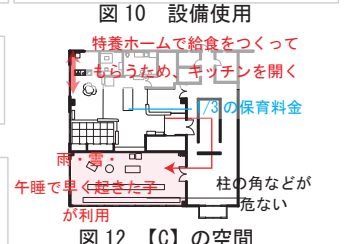
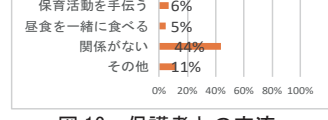
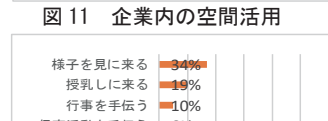
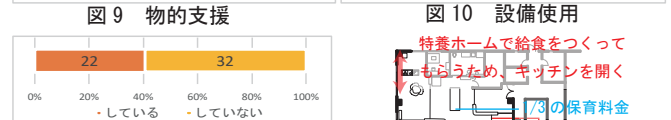
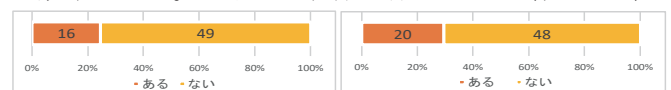


図 13 保護者との交流

図 14 地域との関係

事内容への効果」[F]、自社採用の保育士が企業の一員として、食事会や社員旅行にともに参加することによる「企業行事の賑わい」[G]、営業の後に子供と遊ぶことを楽しみにすることで、営業に訪ねることが気楽になるなど仕事に好影響を与える「リフレッシュ」[A]などがあり、待機児童対策以上の効果を有する。

#### 4. 保護者・地域との連関

##### 4.1 保護者との関係

企業に属す保護者と関係（図13）は、「関係がない」が44%であるが、一方で56%は交流を持つ。保護者が昼休みなど施設の前を通る際に「様子を見る」[A]、母乳離れできないため、2～3時間に一回「授乳」[F]、一食500円で親に子どもと同じ食事を提供し、一緒に食べることで絆を深めることを目的とする「昼食を一緒に食べる」[D]、など距離が近いことで可能である交流が行われ、保育活動が多様化している。

##### 4.2 保護者への効果

[子供が近くにいる安心感]や授乳できることによる[早期復帰]、相談に乗りやすい環境で[不安を取り除く]、臨機応変に[行事に参加しやすい]、などの効果が見られ、近くにあることで保護者に育児と仕事を両立するための新しい利用形態が生まれている。

##### 4.3 地域との関係

地域との関係評価（図14）では、「密」以上が31%、「疎」以下が13%となっており、比較的良好である。開園前から良好な関係を持ち、開園式に呼ぶ[B]、挨拶から交流に発展[G]など、積極的な働きかけが見られる。また、3.5のような地域イベントへ発展し、地域ニーズへの対応や交流を生むなど、地域を大事にする企業の意向が迷惑施設としての認識が強い従来の認可保育施設にはない地域と密な関係が期待できる。

#### 5. 連関を生みやすい立地・空間条件

1) 距離の近接性 立地選定理由から、敷地内外の立地を連関において重要視し、クロス集計を各項目で行うと、「敷地内」>「徒歩圏内」>「1001m～」の順番で保育面において企業との連関が比例して高くなっており、物理的な距離が重要であることがわかる（表5）。

##### 2) 社員の往来があり、開放的であること

営業帰りに立ち寄る、保護者が外から様子を見る[A]や社員・保護者が立ち寄る[D]などの日常的な交流事例から考えると、図15のように企業の奥まった一角ではなく、社員の往来のある場所や、休憩所などの溜まり場の隣に位置し、加えて開口部などがあるな

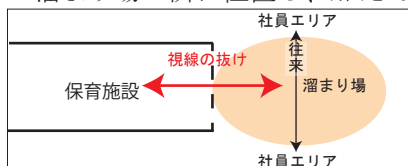


図15 日常的なつながりを生む位置関係・境界面

どにより外部が視覚的につながり、視認しやすい・入りやすいことが効果的であるといえる。

また敷地外に位置する場合は[A]のように社員の往来があるところが効果的である。

#### 6. 結論

本稿では、企業主導型保育施設の実態と第三者である企業が主体的に計画参加し、連関することにより持つ可能性について明らかにし、考察を行った。それらをまとめると以下の5点となる（図16）。

- 1) 保育活動の多様化
- 2) 空間の変化・補完
- 3) 保育ニーズへの対応
- 4) 保育士の質の向上
- 5) 安全性の向上

以上により、コンパクト化などの課題の克服、個々の保育施設が独自性を有する、「保育の質」を高める、などの効果があり企業との連関は保育施設にとって有用である。また企業・保護者にも待機児童対策にとどまらない効果があり、双方に利点がある事業である。したがって、今後の企業主導型保育事業は、企業が保育施設を設置するのみで運営をすべて委託するのではなく、企業が主体的に計画参加し、連関することを期待し、施策においても企業との連関性を補助金の申請の受諾などの指標に組み込み、申請の受諾や補助金の支給額を決定することをここに提案する。加えて、連関を生むには「距離の近接性」「社員の往来と開放性」が重要であるため、このような立地・空間計画がなされることも合わせて期待する。

【注釈】

- 1) 公益財団法人 児童育成協会 / 2017年12月31日付より
- 2) 大阪市、東京都23区、福岡市、旭川市、横浜市、名古屋市
- 3) 青森県、岩手県、秋田県、福島県、富山県、福井県、島根県、徳島県、高知県、長崎県、宮崎県
- 4) 厚生労働省、「平成29年版 国民生活基礎調査」より

【参考文献】

- 1) 山本 知佳 (2015) 「認可外保育施設における運営と活動実態の独自性に関する研究」 大阪市立大学大学院 都市系専攻 修士論文梗概集
- 2) 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 児童福祉部 (2008) 「機能面に着目した保育所の環境・空間に係る研究事業総合報告書」

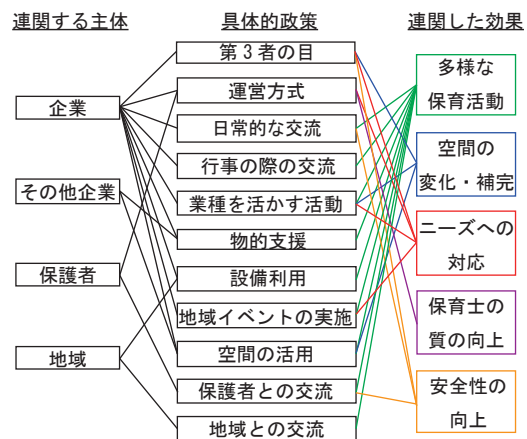


図16 連関による保育の質の向上

表5 敷地内外と企業等連関の割合

	運営			保育							
	出向している	関わる人 いる	話す機会 あり	行事の保育の 関わりあり	企業の業種を活か した保育活動	物的支援 あり	企業の空間活用 あり	備品使用 あり	保護者との関係 あり	地域との関係 あり	
企業の敷地内	12%	62%	85%	58%	50%	27%	73%	46%	77%	19%	
地域内	徒歩圏内 (0~1000m)	31%	56%	69%	38%	44%	6%	19%	25%	63%	25%
	徒歩圏外 (1001m~)	29%	52%	76%	24%	19%	33%	14%	19%	48%	33%